

「美しい日本の粹(すい)」

募集結果 報告書

平成19年9月

内閣官房「美しい国づくり」推進室

## 「美しい日本の粹(すい)」募集結果報告書の概要

「美しい国づくり」プロジェクトでは、企画第一弾として、「美しい日本の粹(すい)」“日本らしさ、ならでは”を、平成19年4月20日から同年6月22日までの約2ヶ月間公募。その結果、全国各地及び海外から総数3,447件の意見が寄せられた。

### 【応募内容の全体的な傾向】

応募者について、性別で見ると約6割が男性。年齢別では、40代・50代の応募が多い一方、20代以下の若者層も15%を占めている。また、地域別では、北海道から沖縄まで全国各地からの応募に加え、海外からの応募も177件あった。

応募内容をより深く考察すべく、応募件数の多さや関連性等を鑑み、以下の6つの分野に分類した。

「気質・感性」分野：生来合わせ持つ個性や生まれ育った環境によって形成される、感じ方や行動・表現の特性を表すもの。

「生活様式」分野：日々の暮らし方や生き方を表すもの。

「文化芸術」分野：生活文化から、伝統芸能、文化財、漫画・アニメに至るまで、幅広く文化に関するもの。

「自然・景観」分野：自然それ自体と、農山漁村やまち並みといった風景・景観。また、それらに対する人々の主観的な思いも含む。

「健全で安心・安全な社会」分野：社会ルールや制度に裏打ちされた暮らしやすい社会のありよう。

「技術」分野：伝統工芸からロボットや自動車といった先端技術に至るまでの多様な技術とそれらにより生み出された製品。また、そのような技術を支える職人や技術者の気質も含む。

性別で各分野の割合をみると、相対的には、男性は「気質・感性」を、女性は「生活様式」を多く挙げている。また、国内外別では、海外からの応募の「気質・感性」の割合が、国内からの応募に比べて約1.5倍となっている。

### 【各分野に関する分析】

#### 気質・感性

- ・「思いやり」や「高潔・清貧」、「和する」気質・感性が多くを占め、これらが、その他の分野である「生活様式」における家族・地域との絆、「文化芸術」、「技術」等にもあらわれていることから、「気質・感性」が様々な“日本らしさ”の重要な要素になっていると考えられる。
- ・“日本ならでは”の「気質・感性」が失われつつあることへの危機感が問題意識。

### 生活様式

- ・人への「思いやり」、人や自然への「感謝」が、「立ち居振る舞い」や「ことば」などの様式となり、家族・近所や地域の絆を育んでいる。
- ・家族・地域との絆を見つめなおし、これらを大切にしていきたい、という問題意識。

### 文化芸術

- ・衣(着物、浴衣など)、食(お米、日本酒など)、住(和風建築、庭など)から、うた(民謡、童謡など)や遊び(折り紙など)に至るまで、様々な文化芸術が日常生活に溶け込み、受け継がれているとともに、心の潤いとなっている。
- ・これら文化芸術を今後も大切に、日常生活の中に取り入れ、守り伝え、そして世界に発信していくべき、という問題意識。

### 自然・景観

- ・「山・森・川・海・空といった自然」、「農山村風景」、そして「まち並み」といった日本特有の自然・景観が、癒し、ゆとり、安らぎを提供し、心を和ませる、豊かな生活・文化の基盤となり、「気質・感性」を育んでいる。
- ・こうした自然・景観は日本人の原風景であり、先人が努力して守ってきたもの。この自然・景観を、みなを知恵と工夫で次の世代に伝えていくべき、という問題意識。

### 健全で安心・安全な社会

- ・「治安の良さ」、「銃のない社会」、「清潔な環境」などが挙げられているように、安心・安全に対する高い意識が生活の中にあらわれている。
- ・こうした意識は、相互信頼の証であり、世界に誇りうる“日本らしさ”であり、維持しながら、さらに世界に広め貢献すべき、という問題意識。

### 技術

- ・「作り手の技術の高さ」と「使い手への心配り」が、「伝統工芸における匠の技」から「先端技術におけるモノ作り」に至るまで、日本の技術力を築きあげてきた。
- ・こうした技術力が技術立国としての日本の存在感を高めており、日本は技術力を活かして地球温暖化対策を初めとする国際貢献をしていくべき、といえる。

### 【考察】

日本人の多くは、「美しい日本の粹(すい)」「日本らしさ、ならでは」が、おもに日本固有の風土と生活を通してつちかわれた『気質・感性』、毎日の生活や行動のなかでできあがってきた『生活様式』など、一人ひとりの内面(性格や気持ち、心など)や日常の行動の中にあると考えている。

なかでも「思いやり」の気持ちは、ことばや家族・近所との絆(きずな)にみられる『生活様式』から、『文化芸術』や『技術』にある様々な“日本らしさ、ならでは”のあらわれである姿勢、行動、形式の重要な要素になっていると考えられる。

また、50代を中心に、「癒し、和み、安らぎ、ゆとり」を、『自然・景観』、『文化芸術』、『生活様式』にも見出す傾向がある。多くの人は、“日本ならではの”自然や景観、そこから派生した「和」の文化や生活様式に、いわば心の原点を見出していると考えられる。

未来を担う10代は、日常生活で身近に接する昔ながらの日本、日本的なものに対する誇りを持ち、和を美しくカッコイイものとして何らかのかたちでかかわろうとする兆(きざ)しが感じられる。同時に、これらをなくしたくない、という気持ちがうかがえる。

## < 目次 >

### 1. 応募内容の全体的な傾向

(1) 応募総数	5 P
(2) 性別・年齢別	5 P
(3) 地域別	6 P
(4) 内容別	6 P
内容 × 性別	8 P
内容 × 国内外別	9 P
「気質・感性」の詳細な内容	10 P
「生活様式」の詳細な内容	12 P

### 2. 各分野に関する分析

#### 2 - 1. 気質・感性

(1) 「気質・感性」の内容	14 P
(2) 「気質・感性」で共有しうる価値と問題意識	16 P

#### 2 - 2. 生活様式

(1) 「生活様式」の内容	17 P
(2) 「生活様式」で共有しうる価値と問題意識	18 P

#### 2 - 3. 文化芸術

(1) 「文化芸術」の内容	19 P
(2) 「文化芸術」で共有しうる価値と問題意識	20 P

#### 2 - 4. 自然・景観

(1) 「自然・景観」の内容	22 P
(2) 「自然・景観」で共有しうる価値と問題意識	23 P

#### 2 - 5. 健全で安全・安心な社会

(1) 「健全で安全・安心な社会」の内容	24 P
(2) 「健全で安全・安心な社会」で共有しうる価値と問題意識	24 P

#### 2 - 6. 技術

(1) 「技術」の内容	25 P
(2) 「技術」で共有しうる価値と問題意識	26 P

### 3. 考察

27 P

参考資料 - 1 「美しい日本の粹(すい)」募集要項

参考資料 2 「美しい国づくり」企画会議 有識者名簿

## 1. 応募内容の全体的な傾向

(1) 応募件数： 2ヶ月で約3,400件の応募。

「美しい国づくり」プロジェクトでは、平成19年4月20日から同年6月22日までの約2ヶ月間、「美しい日本の粹(すい)」として“日本らしさ、ならでは”のものを公募した結果<sup>1</sup>、同プロジェクトの公式ウェブサイト経由又は郵送により、全国各地及び海外から、総数3,447件の応募が寄せられた。

(2) 性別・年齢別： 男性が6割以上。相対的に40代・50代の応募が多い一方、20代以下の若者層も15%応募。

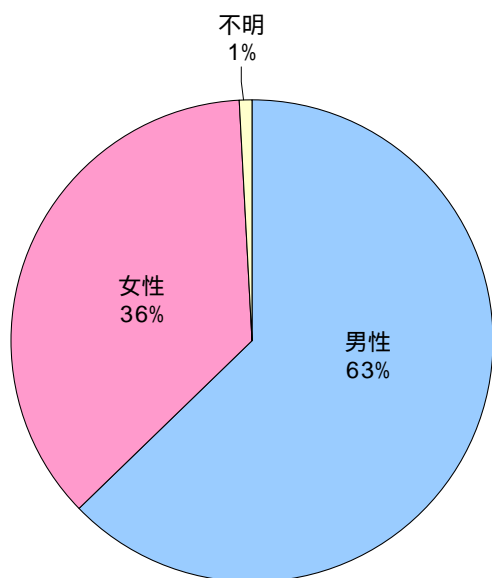


図1. 性別(N=3,447)

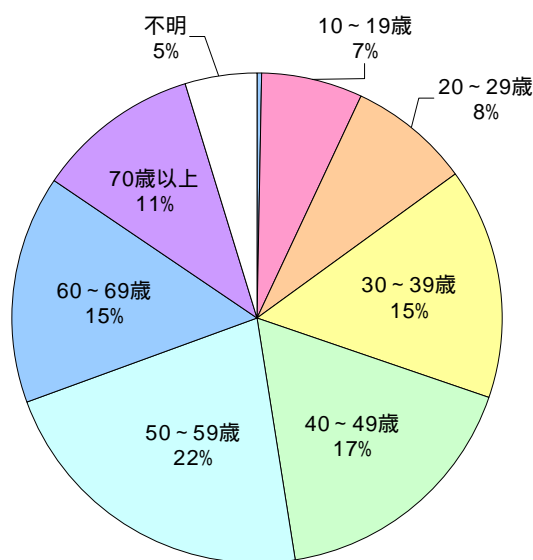


図2. 年齢別(N=3,447)

応募者の属性につき、性別で見ると、男性が63%、女性が36%である(図1)。また、年齢別では、50代が22%、40代が17%と相対的に多いが、20代以下の世代からの応募も15%を占めている(図2)。

<sup>1</sup> 募集内容は、参考資料 - 1 を参照。

(3)地域別：北海道から沖縄まで全国各地から。海外からも177件の応募。

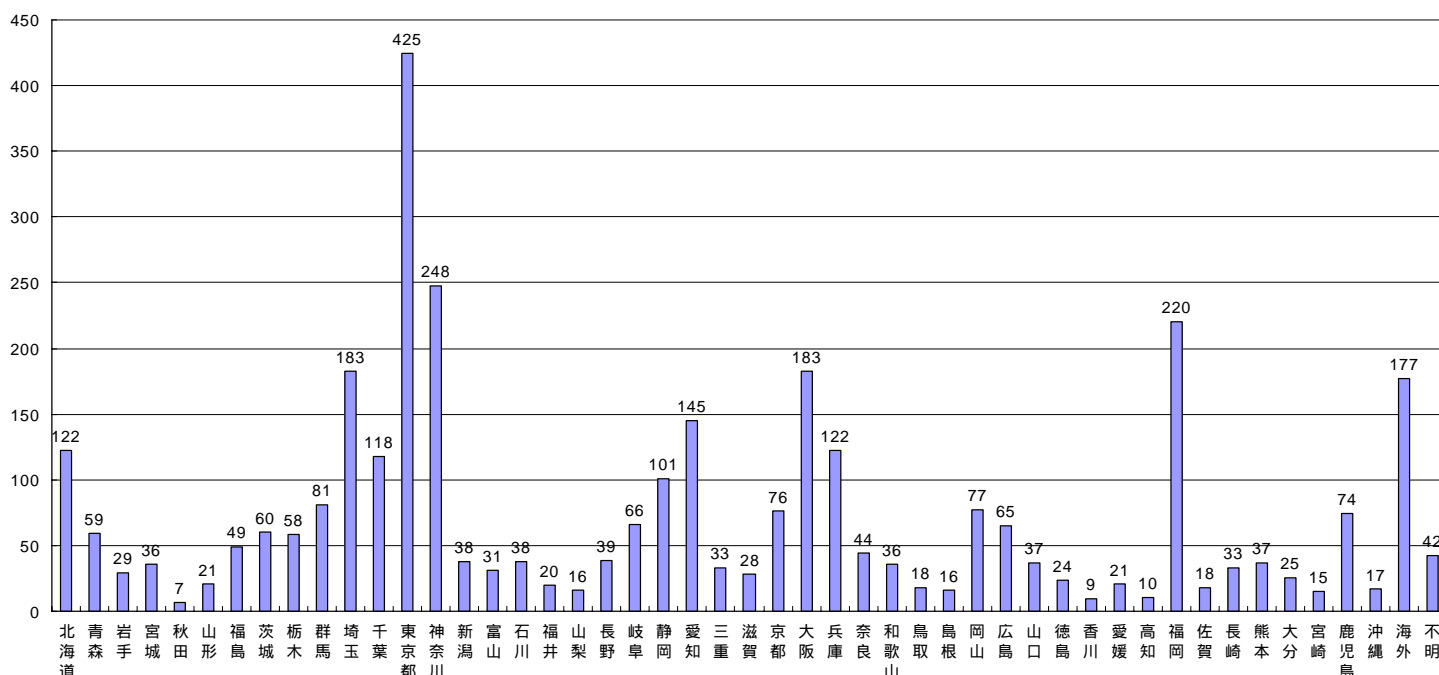


図3. 地域別 (N=3,447)

応募者を地域別で見ると、東京・神奈川といった首都圏からの応募が比較的多いが、北は北海道から南は沖縄まで、全国各地から応募が寄せられた。また、海外在住者からの応募も177件にのぼった(図3)。

(4)内容別：「気質・感性」と「生活様式」で約半数

応募内容が多岐にわたっているため、その内容をより深く考察すべく、応募件数の多さや関連性等を鑑み、以下に述べる6つの分野に分類した。

ただし、当然ながら、いずれの分野も互いに深く関係し合っている。ここでは、厳密に各分野に区分することが趣旨ではなく、あくまで応募内容に関する考察の切り口として設定した。

「気質・感性」分野：生来合わせ持つ個性や生まれ育った環境によって形成される<sup>2</sup>、感じ方や行動・表現の特性を表すもの。例えば「思いやり」、「高潔・清貧」、「人と和する気質」、「謙虚・謙譲」等が含まれる。

「生活様式」分野：日々の暮らし方や生き方を表すもの。例えば、「ことば」、「家族や近所づきあい」、「自然と調和した生活」等が含まれる。

<sup>2</sup> 経済産業省、「感性価値創造イニシアティブ」2007/5,  
<http://www.meti.go.jp/press/20070522001/20070522001.html>

「文化芸術」分野：「和服」、「和食」等の生活文化から、伝統芸能、文化財、漫画・アニメに至るまで、幅広く文化に関するもの。

「自然・景観」分野：自然それ自体と、農山漁村やまち並みといった風景・景観。また、それらに対する人々の主観的な思いも含む。

「健全で安心・安全な社会」分野：「銃のない社会」等の社会ルールや制度に裏打ちされた暮らしやすい社会のあり様。

「技術」分野：伝統工芸からロボットや自動車といった先端技術に至るまでの多様な技術とそれらにより生み出された製品。また、そのような技術を支える職人や技術者の気質も含む。

分類の結果、各分野の割合は、以下のとおりである(図4)。

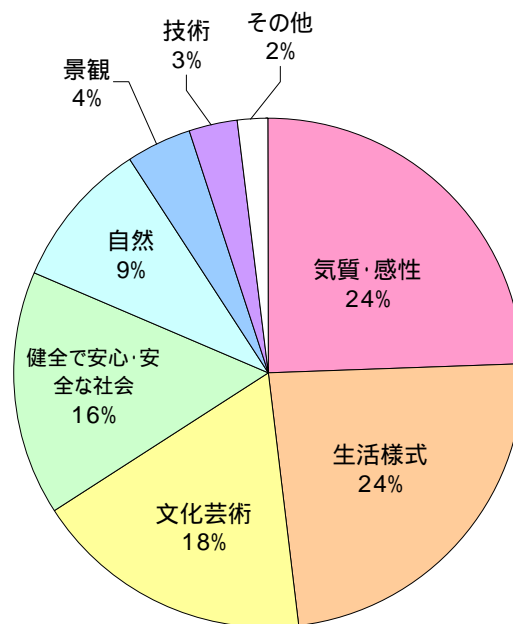


図4. 「粋」の応募内容(N=3,447)

『気質・感性』に関する応募が24%、『生活様式』に関する応募が24%と、この2分野で約半数を占めている。

このほか、『文化芸術』(18%)、『健全で安心・安全な社会』(16%)、『自然』(9%)、『景観』(4%)、『技術』(3%)に関する応募が続いている。



内容×性別:相対的にみると、男性は「気質・感性」を、女性は「生活様式」を挙げる。

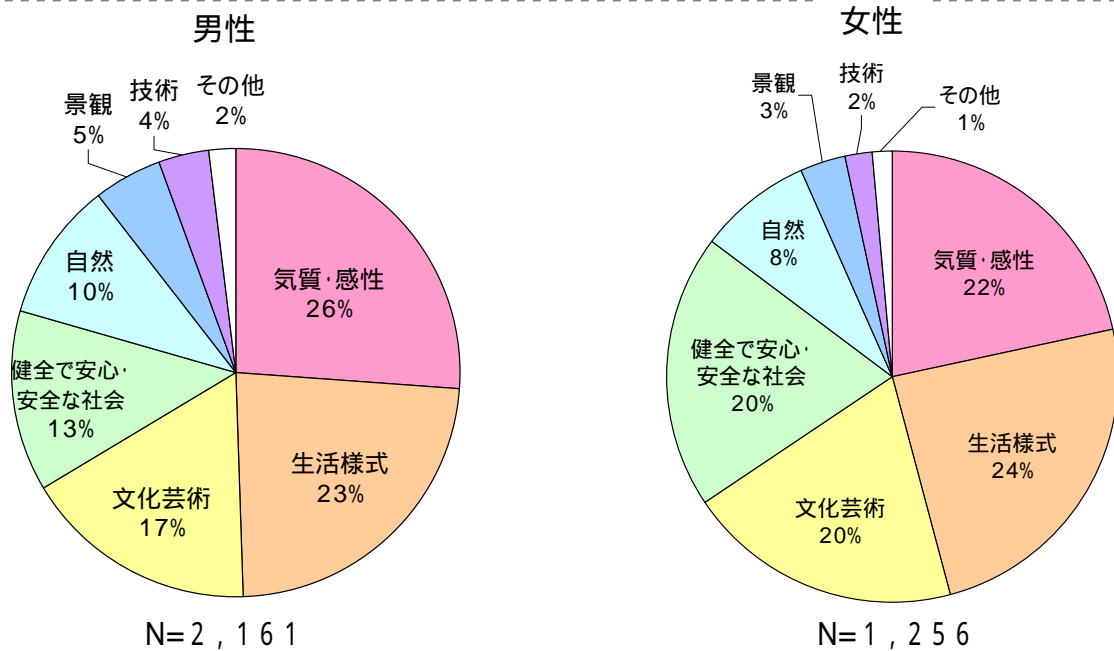


図5.性別でみた「粹」の応募内容

性別でみると、男性は「気質・感性」、「生活様式」、「文化芸術」の順に応募が多い一方、女性は「生活様式」に関する応募が最も多く、続いて「気質・感性」、「文化芸術」、「健全で安心・安全な社会」の順となっている(図5)。

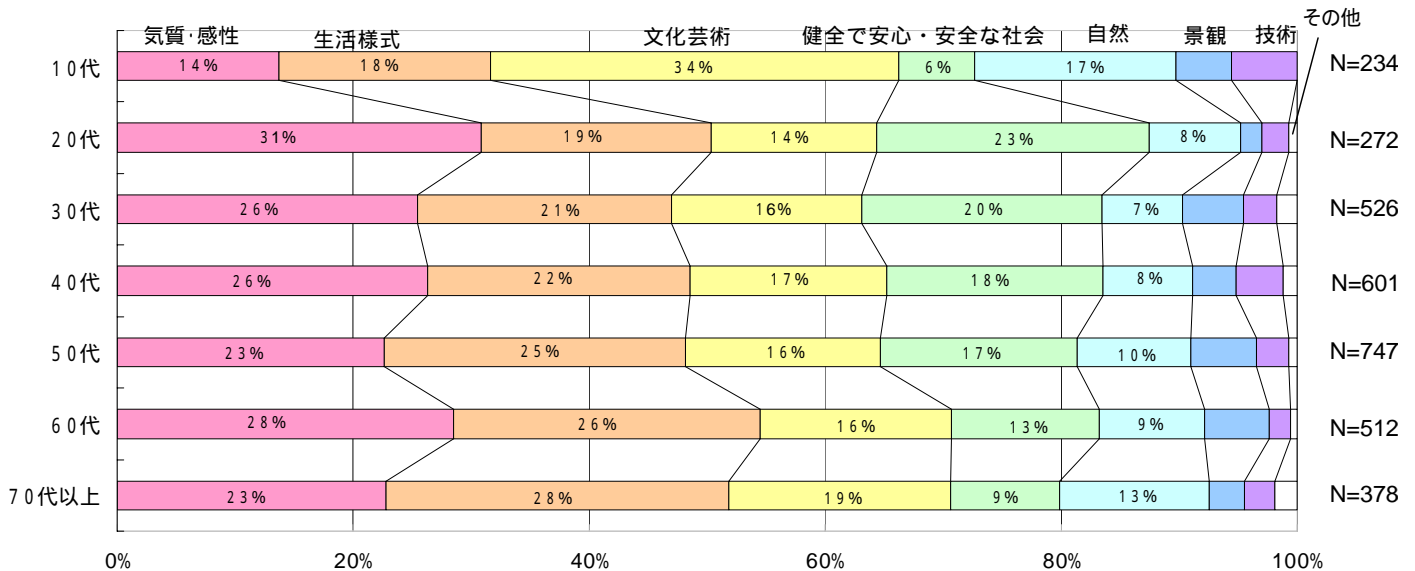


図6.年齢別でみた「粹」の応募内容

年齢別でみると、30代以上は「気質・感性」、「生活様式」が1位又は2位を占める一方、10代では「文化芸術」に関する応募の割合が34%と圧倒的に高く、次に「自然」に関する応募が多い。20代では「気質・感性」に関する応募の割合が最も高かったものの、次に「健全で安心・安全な社会」に関する応募が多かった点で、30代以降の世代とは応募の割合が異なる(図6)。

内容×国内外別:

海外からの応募では、「気質・感性」の割合が国内からの応募に比べ約1.5倍。

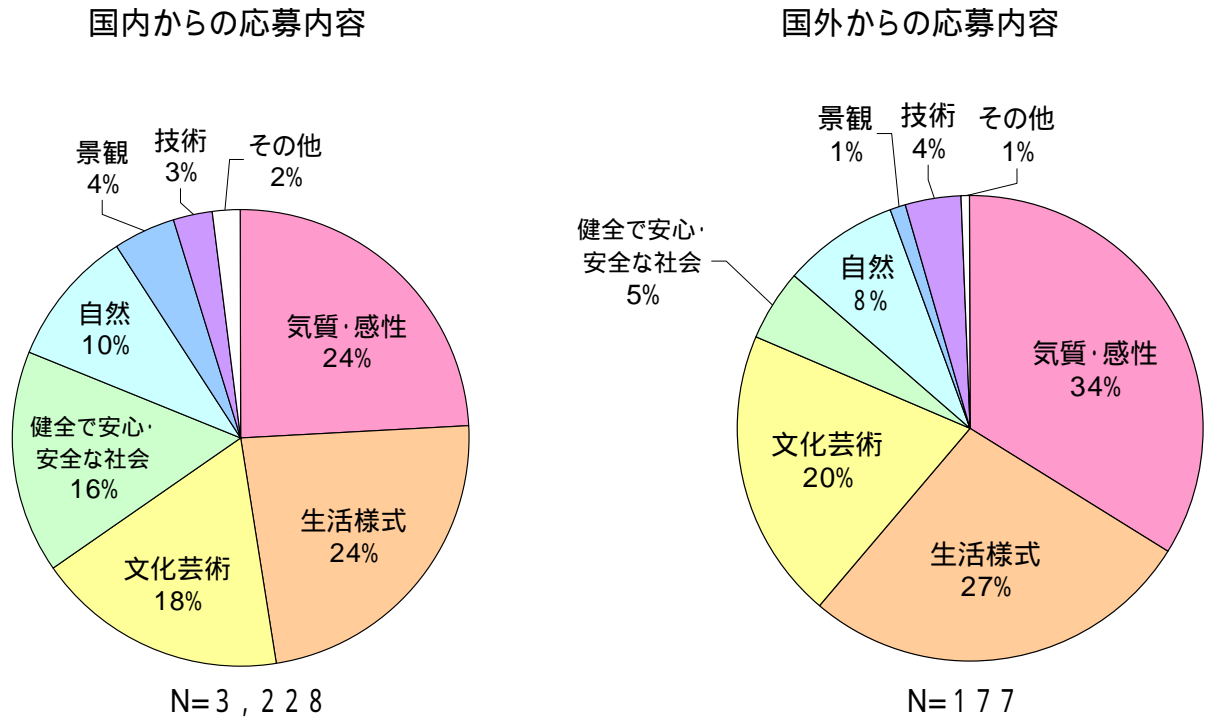


図7. 国内外の別でみた「粹」の応募内容

国内外からの応募を比較すると、海外から応募は「気質・感性」が多く(海外34%、国内24%)、国内からの応募は「健全で安心・安全な社会」(16%)、「自然・景観」(14%)が多い(図7)。

「気質・感性」の詳細な内容：

「気質・感性」の中では、「思いやり」(23%)や「高潔・清貧」(17%)が多い。

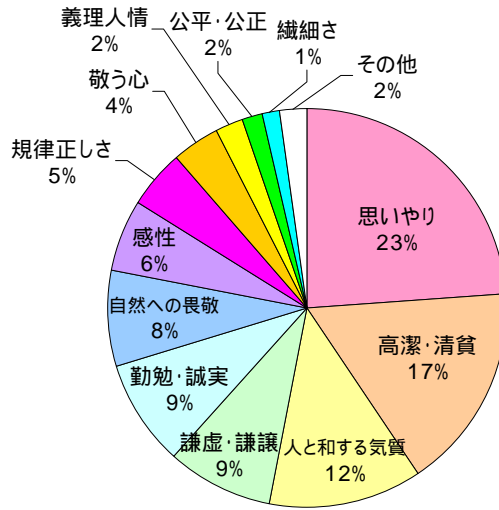


図8. 「気質・感性」の応募内容(N=842)

「美しい日本の粹(すい)」として最も多い「気質・感性」の中では、親切等の「思いやり」(23%)、武士道等の「高潔・清貧」(17%)、「人と和する気質」(12%)、奥ゆかしさ等の「謙虚・謙譲」(9%)、まじめ等の「勤勉・誠実」(9%)、「自然への畏敬」(8%)に関する応募が多い(図8)<sup>3</sup>。

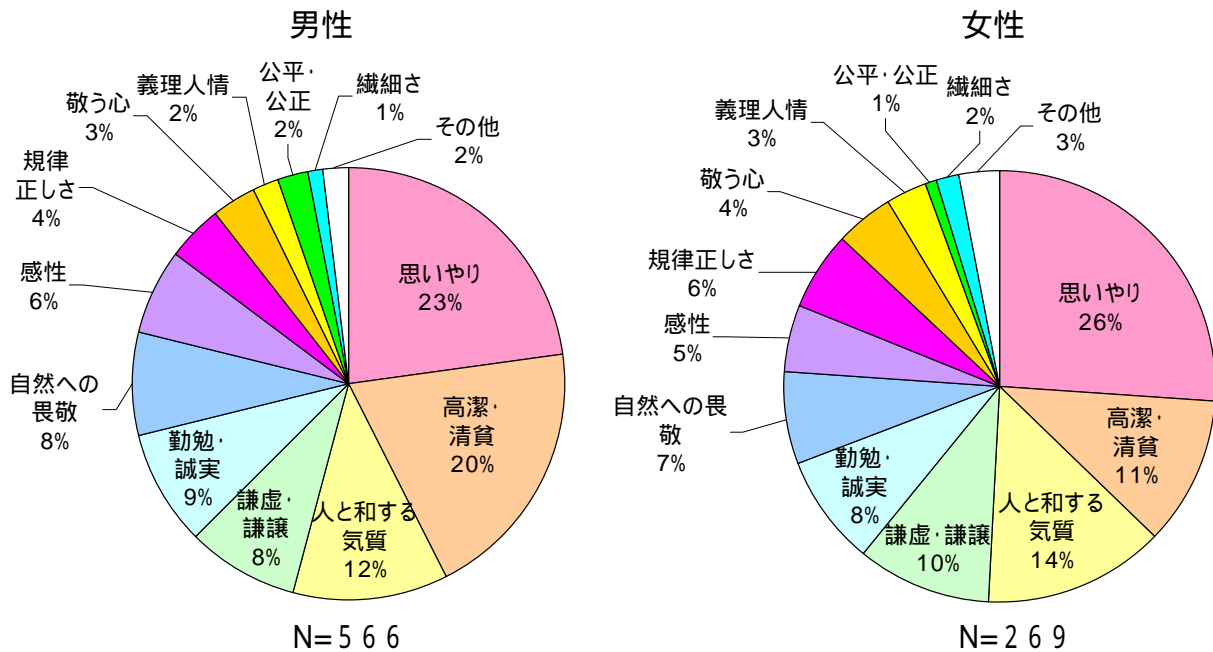


図9. 「気質・感性」の男女別割合

性別でみると、男性の方が「高潔・清貧」を挙げる人の割合が高い(図9)。

<sup>3</sup> 詳細は、後述(2-1. 気質・感性)を参照。

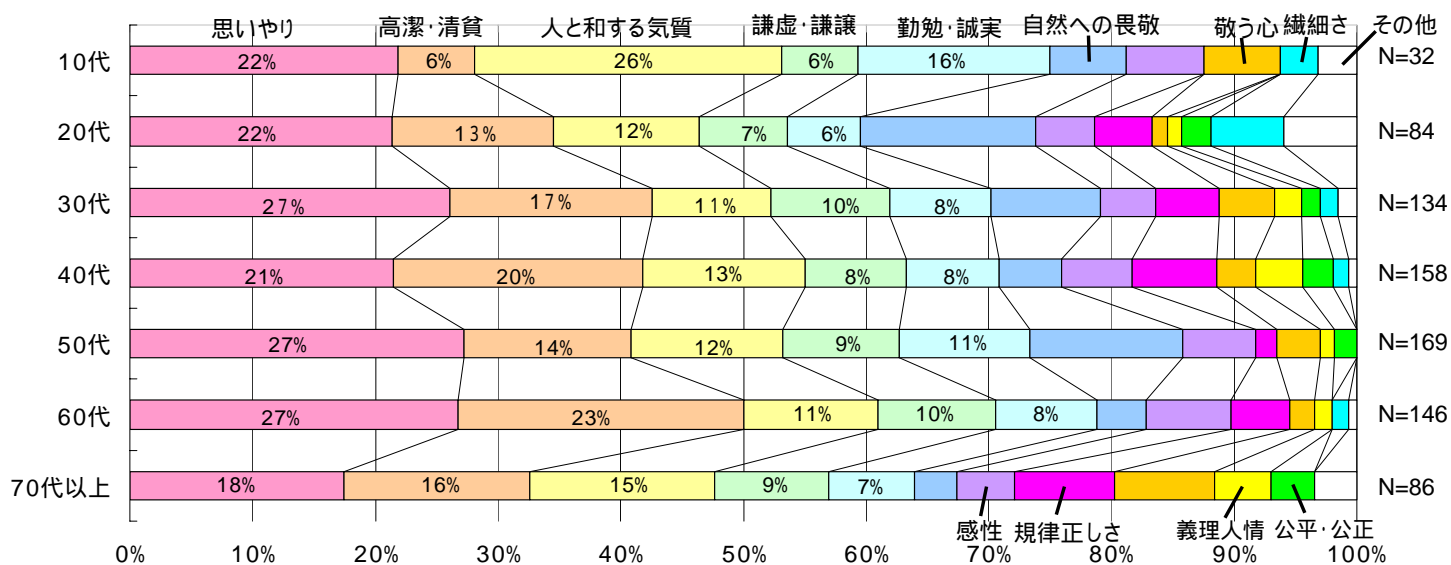


図10. 「気質・感性」の年齢別割合

年齢別で見ると、10代では、「人と和する気質」、「勤勉・誠実」に関する意見が多かった。一方、20代以上の世代では、「思いやり」、「高潔・清貧」に関する意見が多くを占める(図10)。

「生活様式」の詳細な内容：

「生活様式」の中では、「ことば」と「家族の絆・近所の交流」に関するもので約半数を占める。

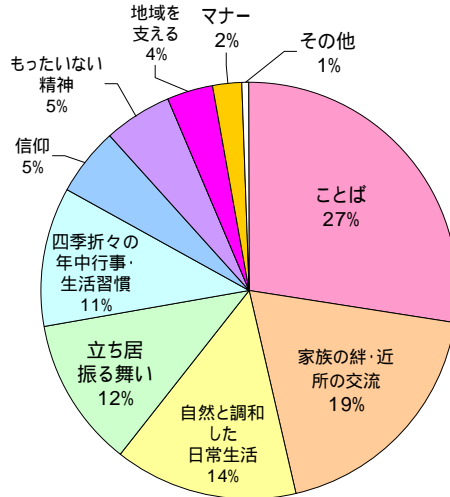


図11. 「生活様式」の応募内容(N=814)

「気質・感性」の次に多い「生活様式」について見てみると(図11)<sup>4</sup>、「ことば」(27%)、家族の団欒等の「家族の絆・近所の交流」(19%)、打ち水等の「自然と調和した日常生活」(14%)、礼儀作法等の「立ち居振る舞い」(12%)、「四季折々の年中行事・生活習慣」(11%)、先祖供養等の「信仰」(5%)、「もったいない精神」(5%)、コミュニティ等の「地域を支える」(4%)などの意見が見られる。

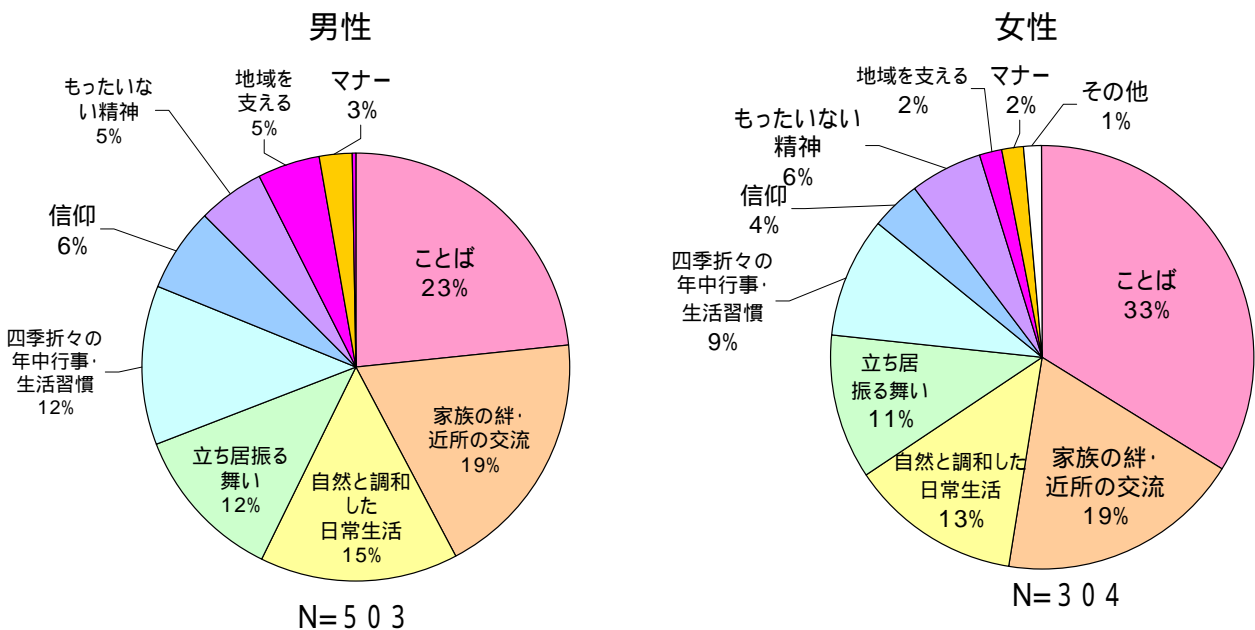


図12. 「生活様式」の男女別割合

性別で比較すると(図12)、女性の方が男性よりも「ことば」を挙げた人の割合が多い一方、男性の方が女性よりも「地域を支える」に関する意見が多い。

<sup>4</sup> 詳細は、後述(2-2.生活様式)を参照。

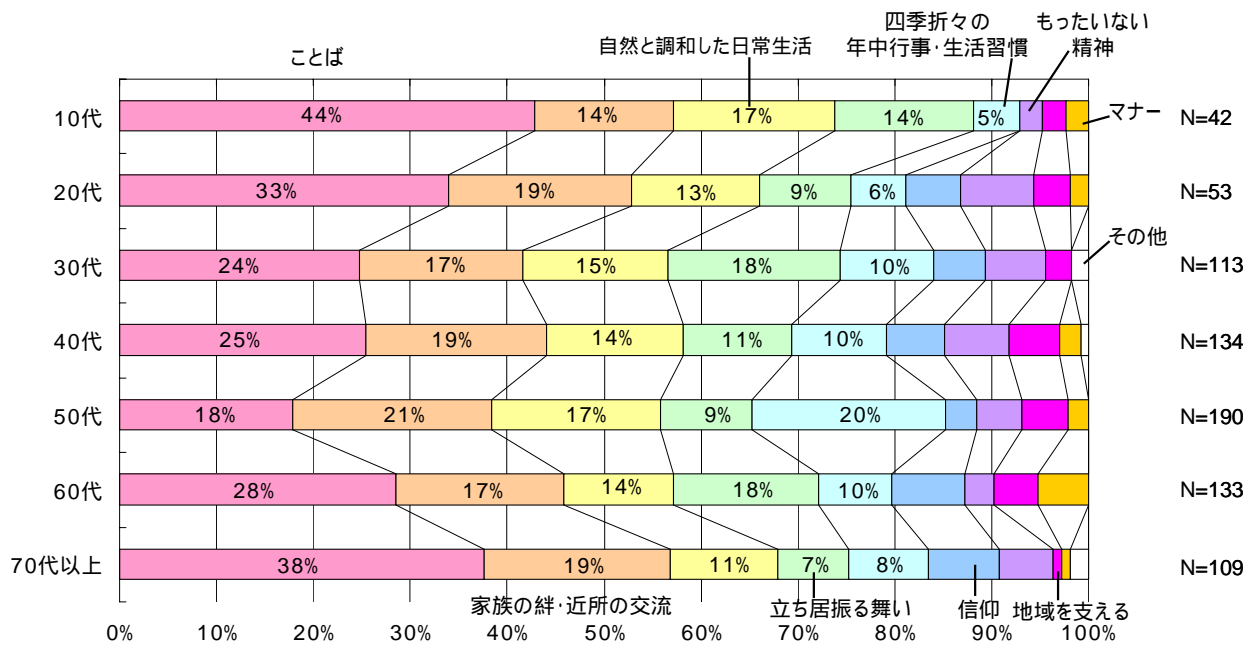


図13. 「生活様式」の年齢別割合

年齢別で見ると(図13)、10代、20代、70代以上で「ことば」に関する意見の割合が高かったほか、30代～60代で「四季折々の年中行事・生活習慣」の割合が高い。また、60代で「マナー」の割合が高いという特徴が見られる。

## 2. 各分野に関する分析

### 2 - 1. 気質・感性

#### (1) 「気質・感性」の内容:

「思いやり」や「高潔・清貧」、「和する」気質・感性が多くを占め、これらが、その他の分野である「生活様式」における家族・地域との絆、「文化芸術」、「技術」等にあらわれていることから、「気質・感性」が様々な“日本らしさ”の重要な要素になっていると考えられる。

応募件数のうち24%が、「美しい日本の粹(すい)」を、“日本らしさ、ならでは”の気質・感性にあると考えている。中でも多いのが「親切」、「心配り」、「おかげさま」、「阿吽」、「感謝の心」、「おもてなしの心」といった『思いやり』、「武士道」、「恥を知る」、「清廉潔白」等の『高潔・清貧』、そして、「和をもって尊しとなす」、「平和を愛する心」等に代表される『人と和する気質』。このほか、『勤勉・誠実』、『自然への畏敬』、『謙虚・謙讓』等が挙げられている。

こうした気質・感性は、次章以下で述べる「生活様式」等においても、それぞれが、“日本らしさ”に当たる理由として挙げられることが多い。つまり、気質・感性は、様々な“日本らしさ、ならでは”の重要な要素になっていると考えられる。

「気質・感性」のうち、『思いやり』(「思いやり」、「おかげさま」、「親切」、「おもてなしの心」、「感謝の心」、「心配り」等を含む。)は、3,447件の多様な意見がある中で「粹(すい)」又はその「理由」として533件にあらわれている。

分野としては、「気質・感性」のほか、自然、景観、文化芸術、技術、生活様式と幅広い分野で挙げられている。

これらのことから、相手のことや立場、状況を配慮する「思いやり」は、“日本ならでは”の風土に育まれた気質・感性としてだけではなく、その気質の表れとして生活様式における家族、仲間、地域との絆や、“日本らしさ、ならでは”の伝統文化や芸術、技術・職人技の重要な要素になっていると考えられる。

年代別で応募内容を比較すると、「人と和する気質」と「勤勉・誠実」については、特に10代において、他の年齢層と異なる傾向が表れている(図10)。具体的には、以下のとおり。

#### 『人と和する気質』

他の年齢層が10%程度であるのに比べて、10代で26%となっている。その中には、「自分が不都合なことがあってもそっとしておく」、「事を大きくすることなく、自分も周りも不快な思いをすることなく」、「喧嘩しても、苦しいだけだし、仲良くしていると楽しいから」、「人同士のふれあい」、「お互いに尊重しあう謙虚さ」等、できるだけ人との摩擦を避けたい又は人間関係を上手く保ちたい、といった意識が多く見られる。

『勤勉・誠実』

他の年齢層では一桁台であるのに比べて、10代で16% (図10)。そこには「命をかけて後世に残るものを作ろうとする日本人」、「名前は残らなくても、みんなのために汗水流して～」、「一心に仕事や勉強に励む人がいるからこそ」、「大切に育てるといいうやさしい気持ち～」等、神社仏閣を築いた先人や、農業に専心してきたおばあちゃんといった先人の仕事に対する尊敬の気持ちが表れている。

これは、他の年齢層が「地道にコツコツと仕事する」、「時間を守る」、「見えなくても手も抜かない」といった内容が中心になっている傾向とは、犠牲的な精神を取り上げている点で異なるものである。

海外からの応募内容と国内からの応募内容とを比較すると、「思いやり」について違いが見受けられる(図14)。

『思いやり』

国内からの応募では、「思いやり」は24%だったものが、海外からの応募者では31%を占めた。海外での生活を通じて、自己主張が強いと感じる現地の人との関係に対し、日本人の持つ感謝や、特に相手に対して思いやる気持ちを懐かしむといった感覚があるように思われる。

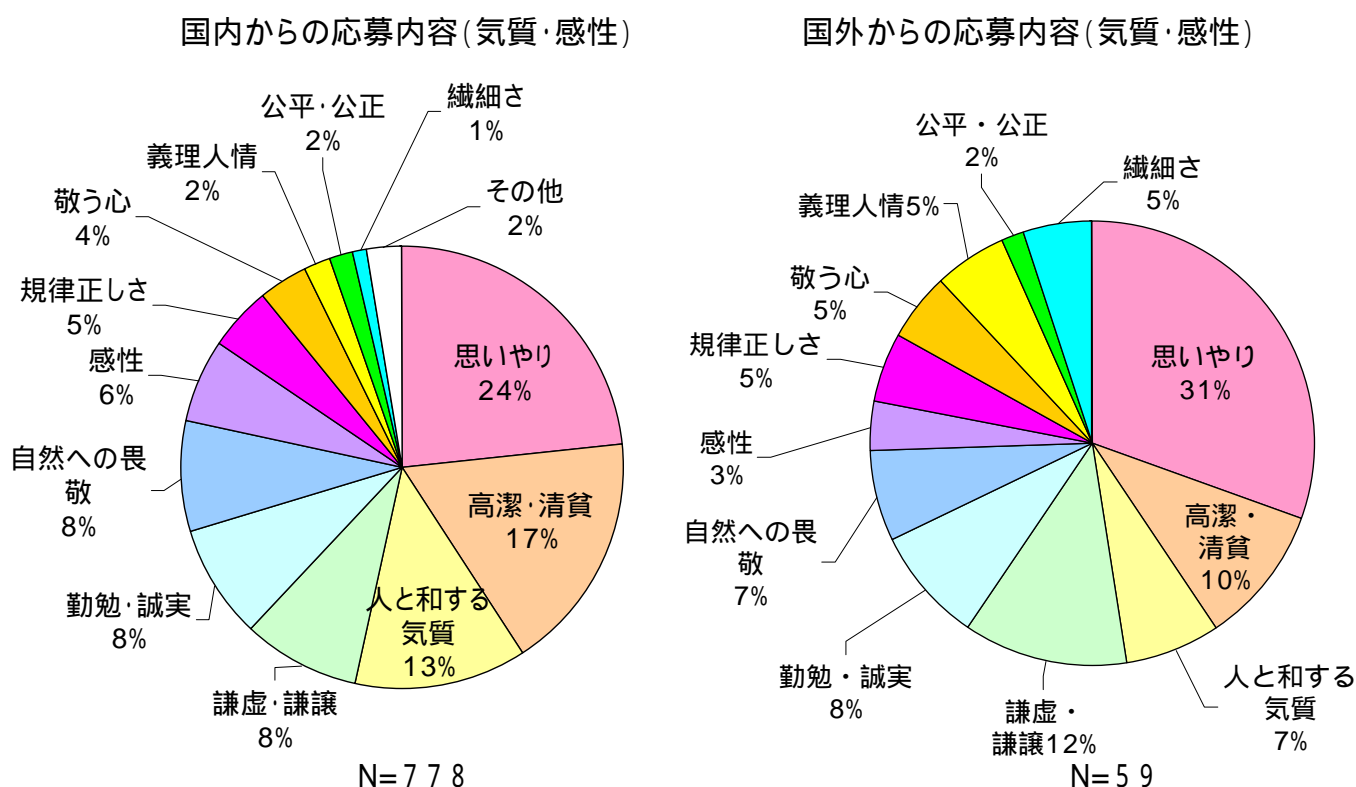


図14. 「気質・感性」の国内外比較



国内外の意見を比較すると、国内では、「高潔・清貧」、「人と和する気質」、「感性」を“日本らしさ、ならでは”とするものが多いことに対し、海外からは、「謙虚・誠実」、「義理人情」、「繊細さ」を“日本らしさ、ならでは”とするものが多い。

(2)「気質・感性」で共有しうる価値と問題意識:

“日本人ならでは”の「気質・感性」が失われつつあることへの危機感。

“日本人ならでは”の表れとしては、以下のような姿勢・意識が挙がっており、これらは、共有しうる価値あるものといえるのではないかと考える。

- 地震が起きた際の冷静かつ整然とした日本人の行動
- 国際協力等、人が見ていないところでも地道にやりとげる姿勢
- 匠の職人や農業に従事する人々等の黙々と良いものを創ろうとする姿勢
- 相手を受け入れ、尊重し認め合う姿勢と行動
- 文化、伝統、宗教、人間関係等における和を尊ぶ意識

一方で、「気質・感性」においては、他では見られなかった様々な問題意識、特に、“日本らしさ、ならでは”につながっていく「気質・感性」が失われつつあるのではないかと、という問題意識が多くみられる。

具体的には、昨今、社会的弱者を狙った犯罪、親殺し、子殺し、不正といった事件が日々発生しているという意識から来るものが多く、

- 他人への配慮や思いやりを失ってしまっている
- 大人自身へのしつけ、規範となるべき大人の喪失
- 公德心、道徳、地域や親子といった教育の見直し
- 恥に対する意識の希薄化
- 自己主張、自己権利、成果主義、競争社会、拝金主義

といった問題意識が挙げられており、これらを共有しうるものといえるのではないかと。

## 2 - 2 . 生活様式

### (1) 「生活様式」の内容:

人への「思いやり」、人や自然への「感謝」が、「立ち居振る舞い」や「ことば」などの様式となり、家族・近所や地域の絆を育んでいる。

「生活様式」(応募総数の24%)の分野に挙がってきている項目は、「年中行事」、「生活習慣」、「家族や近所との交流」、「信仰」、「立ち居振る舞い」、「地域を支える活動」。これらを挙げている理由として、「絆」、「感謝」、「思いやり」、「気配り」、「助け合い」といった『人間関係』にかかわるもの、「自然への感謝の気持ち」、「四季の移ろいに育まれる感性」等の『風土』にかかわるものが大半である。

年代別で応募内容を比較すると、「ことば」については、特に「10代」と「70代以上」において、以下に述べるように、他の年齢層と異なる傾向が表れている(図13)。

#### 『ことば』

他の年齢層が概ね20%弱～30%強の範囲である中で、10代は44%、70代が38%が『ことば』を挙げている。この2つの年代層で共通しているのは、「ありがとう」、「いただきます」、「ごちそうさまでした」、「おはようございます」、「おやすみなさい」、「もったいない」といった言葉を、相手を思いやる気持ちがこもった美しい日本の言葉として挙げていること。また、「方言を大事にするべき」、といった意識も両年齢層で共通していたものである。

一方、10代が「日本語が乱れている」、としているのに対して70代以上は国語(教育を含む。)が乱れていると指摘するといった違いも見られたが、概ね人と人との関係の中で相手に対する思いやりを大切にし、それを表現する言葉が豊かなので、「日本語を美しい」としている。

国内外で応募内容を比較すると、「ことば」と「立ち居振る舞い」については、以下のような違いが見受けられる(図15)。

#### 『ことば』

国内からの応募では27%だったが、海外からの応募者では36%を占めた。奥ゆかしく、微妙な心の表現ができるとして他には無い日本語の魅力が海外生活の中で実感している。特に、食事の後に、感謝の気持ちを表す言葉として使う「ごちそうさま」は、他の言語ではあまりないとし、こうした感謝をはじめとした人の心を多彩に表現する日本語を美しいと感じているという意見もある。

#### 『立ち居振る舞い』

国内からの応募では11%だったが、海外からの応募者の27%を占めた。礼儀正しさ、礼節がほとんどを占め、海外での生活を通じて、日本人の礼儀正しさ

に対する誇りと海外でも通用するという自信が感じられる。他の国ではあまりない、たたずまいの美しさを、「日本ならではの」美しさと感じている。

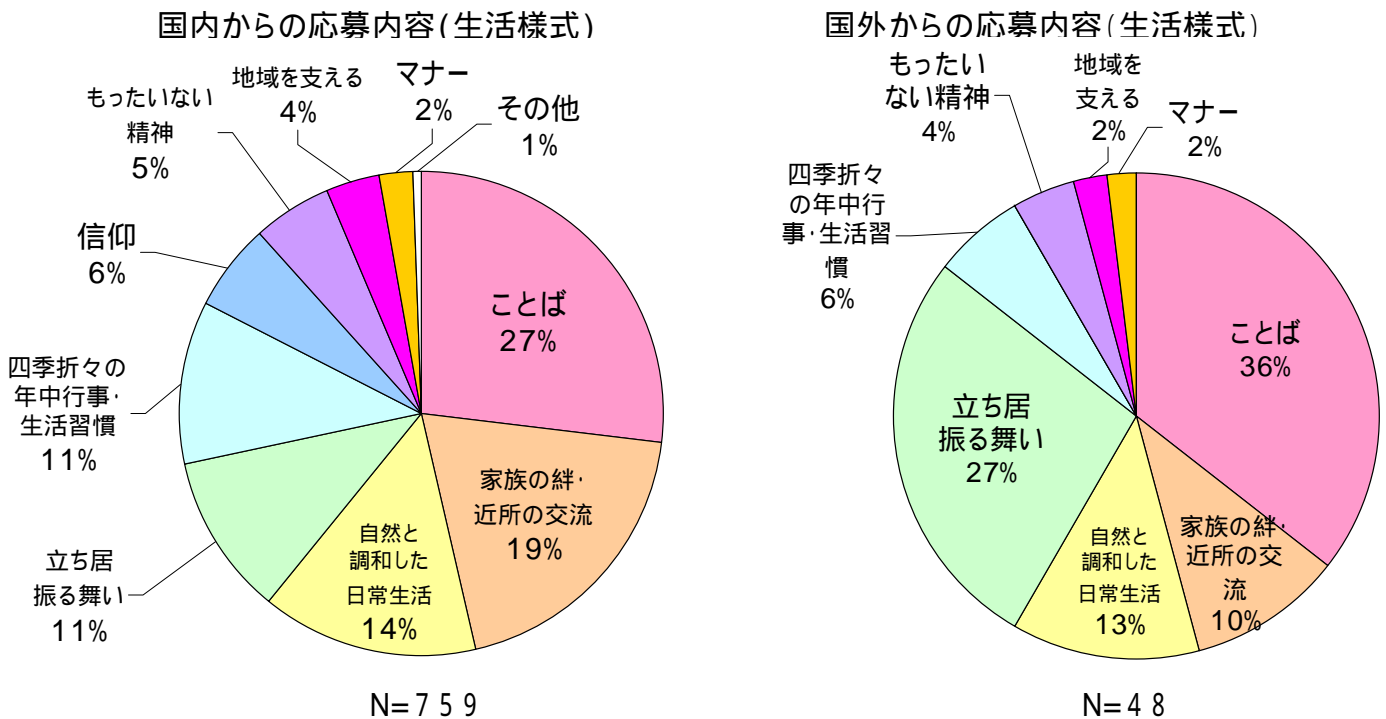


図15.「生活様式」の国内外比較

(2)「生活様式」分野で共有しうる価値と問題意識：  
 家族や地域との絆の大切さを感じている。

共有しうる価値・問題意識として、

自然への感謝、四季の移ろいに育まれる感性を通じて、人間関係を円滑にし、地域社会を安心・安全なものにすることが“日本ならではの”生活様式として共有しうる価値といえるのではないかと考える。

しかしながら、問題意識として、各地域に残る行事や生活習慣の継承が失われつつあり、地域や家族の絆が希薄になりつつある。言い換えれば、こうした絆やコミュニケーションが大切という意識が見られ、人と人との関係の大切さを見つめ直したいという思いがみられる。

例えば、こうした意識の現われとして、「町内会」、「消防団」、「子供会」といった家族ぐるみや地域ぐるみの活動の重要性が挙げられている。

また、世代間の絆についても、「祖父母の存在が、生活の知恵や若い親世代の支援につながり、様々な社会問題の解決の鍵になる」との声がある。

また、「ことば」や「立ち居振る舞い」については、「失われつつある、又は取り戻すべき美しさ」とする問題意識が多くみられる。

## 2 - 3 . 文化芸術

### (1) 「文化芸術」の内容：

衣食住から、うた、遊びまで、様々な文化芸術が日常生活に溶け込み、受け継がれ、人々の原点であり、心の潤いの源。

「気質・感性」と「生活様式」に次いで多い「文化芸術」(応募総数の18%)の分野を更に分類すると、『稲作・農耕文化とそれに根ざした地域文化・風習』、『日常生活の中に見出される文化芸術』、そして『工芸、技芸、芸能』等に分類できる。

まず、日本文化の基盤として挙げられている『稲作・農耕文化とそれに根ざした地域文化・風習』については、南北に長い国土において、四季折々の自然・風土に根付いた稲作・農耕文化の生活が、日本人の感性を培ってきたとしている。

そして、日本人の日常生活に溶け込み、受け継がれてきた伝統文化として、各地域に残る「祭り」、「風習」、「昔話・神話」等が挙げられている。

例えば、「祭り」の場合、具体的には、「伊勢神宮の式年遷宮」や「東北の夏祭り」など著名なものも挙げられているが、むしろ応募の大半は、市民祭も含めた「地元の祭り」である。その理由としては、「自然・祖先への感謝や畏怖の念」といった祭り自体の趣旨のほか、一人ひとりの自己体験をもとに「地域との絆」や「青少年教育」等、「地域社会との接点」としての役割を見出すとともに、その継承を望む声が多い。

『日常生活の中に見出される文化芸術』については、日々の暮らしにおける衣食住それぞれについて、様々な声がある。具体的な傾向としては、以下のとおり。

#### ・「衣」:

「和服」、中でも「着物」、「浴衣」、「学生服」等が多く挙げられている。その理由としては、「凛(りん)とした美しさを醸し出す」、「立ち居振る舞いが美しい」等、和服を着こなす姿の美しさを挙げているものが多い。

#### ・「食」:

「和食」、具体的には、「お米」、「日本酒」、「お茶」、「海苔」、「味噌」、「魚」、「旬の食材」、「幕の内弁当」、「和菓子」等、日常生活の中で食する機会の多いものが挙がっている。理由としては、料理自体の美しさ、健康食としての機能性、美味しさだけではなく、その背景にあるものとして、「家庭や家族の絆」を見出す声も多い。

#### ・「住」:

「和風建築」や身の回りの小物・道具が挙げられている。具体的には、神社仏閣等の建物や庭園のほか、「畳」、「障子や襖」、小物・道具として「風呂敷」、「団扇」、「風鈴」等。そして、こうした「日本らしさ」を表す建物・小物・道具に囲

まれた生活に、「安らぎ・安心感」を覚えることを理由として挙げるものが多い。

・このほかには、「うた」や「遊び」が多く寄せられている。

「うた」について、具体的な内容としては、「和歌・俳句」から、江差追分等の「民謡」、「童謡」、「唱歌」、「校歌」、そして「流行の演歌」や「歌謡曲」まで、幅広い類のうたが挙げられている。「遊び」についても、「折り紙」や「はねつき」等、手を使って気軽に遊べるものが挙げられている。

そして、これら「うた」や「遊び」を挙げている理由としては、その多くがこれらを「自分の原点・原風景」としており、一人ひとりが故郷を想うあらわれとして「うた」や「遊び」を捉えていると考えられる。

『工芸、技芸、芸能』については、伝統的なものを中心に、漆器、陶磁器、こけしといった「伝統工芸品」、歌舞伎、能、落語、日本舞踊、雅楽、華道、茶道、武道、書道等の「伝統芸能・技芸」がある。

これらは、それ自身の美しさもさることながら、むしろ、これらを通じた「人格形成」、「精神面の鍛錬」といった理由が多く挙げられるとともに、その伝承の必要性を訴える声が多い。

上記のほかには、我が国の古くからの伝統として、「皇室」、「史跡、文化財、温泉」、「家紋、文様」という意見のほか、これからの新しい文化芸術として、「アニメ・漫画」といった意見もある。

年代別に見ると、「文化芸術」については、10代が他の年齢層に比べて34%と圧倒的に多くを占めている。その内容を見てみると、和食、日本料理、和菓子など、“日本ならではの”の「食文化」が最も多く、26%。そこには、食の欧米化による肥満といった健康意識の高まりがあり、和食が健康的というイメージがある。また、日本料理、和菓子のもつ四季折々の美しさも挙がっており、きれい、優しい、穏やかな感じ、といった意見がみられる。

次に多く挙がっている項目が「着物」。日本にしかないものとして、きれい、美しいからというのが理由。このほか、日本建築、日本庭園なども美しいものとして挙がっており、アニメや漫画といった現代の若者ポップカルチャーは必ずしも多くはない。

「文化芸術」における若者の意見の多くが、これらを「伝えていきたい」としているのも他の年齢層と異なる。10代の若者層は、昔からある“日本らしさ、ならではの”を「日本にしかない」、「美しいもの」、「健康的なもの」という視点で再認識し、誇りを感じ、さらには「伝える」といった行動に至る可能性があると思われる。

## (2)「文化芸術」分野で共有しうる価値と問題意識：

日々の生活の中で守り伝えていくことの大切さ。

「文化芸術」については、“日本らしさ”を表すものとして、日本を代表する神社仏閣や

史跡といった文化財も挙げられるものの、大半が、日々の生活の中に“日本らしさ”を見出している。 内容としては、衣(着物、浴衣、学生服等)、食(お米、日本酒、海苔、味噌等)、住(和風建築、庭、畳、障子等)、風習、うた(和歌、民謡、童謡、演歌等)、遊び(折り紙、はねつき)など幅広い分野にわたっている。

これらを挙げている理由をみると、日本の「文化芸術」は、それらの中に一人ひとりの「原点・原風景」を見出し、姿・形の美しさに加え、地域・家族の絆や、それらと接することにより安心感・安らぎを感じる点が挙げられ、この点が、共有しうる価値としていえるのではないかと考える。

共有しうる問題意識としては、「これら文化芸術を今後も大切にし、日常生活の中に取り入れ、守り伝え、そして世界に発信していくべき」というもの。

## 2 - 4 . 自然・景観

### (1) 「自然・景観」の内容:

豊かな生活・文化の基盤となる「気質・感性」を育む日本特有の自然と景観。

「自然」(応募総数の9%)については、日本の地理的条件を挙げているものから、それらに対する人々の思いを寄せているものまでが挙げられている。比較的多い内容としては、「美しい空、水や川」、「白砂青松」、「山岳」、「森林」等があり、その理由として、「自然は、癒し・ゆとり・安らぎを提供し、心を和ませ、潤いを与えるものである」との趣旨の意見が多い。

また、「四季の変化がもたらす豊かな自然」、「海に囲まれている島国」、そして「肥沃な土壌」などが挙げられている。これらについては、「気質・感性等の日本人の心を育んだものであり、日本人の豊かな生活・文化の基盤である。是非、子孫に残したい」という意見が多い。

なお、具体的な例としては、日本の美しさの象徴として、特に「桜」と「富士山」を挙げる意見が多い。「富士山」については、「清掃活動をして、世界遺産になる努力が不可欠」との意見がある。

自然に関する対策として寄せられた内容としては、「山、森林、河川等の自然保護が重要であり、具体的には、四季を彩る自然を保護する国民的な運動の推進(国花、県花、市町村花、植樹祭等)が必要である」との意見がある。

また、「森林と身近に接し尊さを学ぶ等教育面における改善」を指摘する意見もある。

「景観」(応募総数の4%)については、「農山村風景」と「まち並み」に分類できる。

まず、『農山村風景』について、具体的には、「棚田」、「里山」、「田園風景」、「菜の花畑」等が挙げられている。その理由としては、「これらが日本特有の風景であり、稲作は文化と信仰の原点であり、助け合いの精神や思いやりの心といった日本人の気質を育んできた」というものが多い。

そして、これらは、これまで長い間にわたって、先人達が協力して築き、受け継ぎ、維持されてきたものであり、彼らの努力の結晶であると指摘されている。他方、「近年、これらの素晴らしい景観が失われつつあり、防災・食料供給の観点からも、これらを保存すべき」との趣旨の意見が多い。

次に、「まち並み」について、具体的には、「城下町」、「集落」、「風情あるまち並み」、「清潔なまち並み」、「緑あふれるまち並み」、「日常生活の舞台である商店街」等が挙げられており、これらは、「日本の歴史、伝統、文化そのものを表している」という意見が多い。

このうち、「風情のあるまち並み」については、「日本人の美意識を端的に示すものであり、自然と調和した風景、建物、まち並みとして、次の世代に伝えるべき」との意見がある。このための対策としては、「自宅周辺の一番身近な風景で個性ある素敵な風景の街づくりをすべき」といったものや、「電線や看板が乱列せず、整然としたまち並みに変えていく必要がある」という意見がある。

また、「清潔なまち並み」については、「昔はまち全体が整然として美化の意識が高く、手入れをいとわない風潮があったが、今は街や自然が汚くなっている。街に氾濫するゴミをなくし、心を清めていくことが求められている」という意見がある。

(2) 「自然・景観」分野で共有しうる価値と問題意識：

日本人の原風景として失われつつある自然・景観の次世代への継承。

「自然」について共有しうる価値・問題意識として、「四季のある自然は、癒し、ゆとり、安らぎを提供し、心を和ませ、日本人の豊かな気質・感性を育んできたものであり、日本独自の世界に誇るものである。是非、子孫に残していくべき」、といえるのではないかと思われる。

例えば、残すべき自然については、「日本古来の動物、草花等の野生種」があり、これらを取り戻すことで、各土地本来の植生や生態系に復元する」ことが挙げられる。

さらに、「このような自然保護・復元の取組みや、開発において自然に配慮した知恵や工夫、環境関連技術の開発等を通じて、環境立国として各国のモデルとなるべき」、という意見もみられる。

「景観」について共有しうる価値・問題意識として、「農山村風景は、日本人の心の原風景であり、先人が連綿と続けてきた努力の結果である。また、伝統的な建物やまち並みは、自然と調和した風景である。

しかしながら、これらには近年、失われつつあるものもある。景観や風景が荒むことは、人の心の荒みにもつながりかねない。先人が守り伝えてきた景観や風景を、次の世代に伝えていくべき」、ということがいえるのではないか。



## 2 - 5 . 健全で安心・安全な社会

### (1) 「健全で安心・安全な社会」の内容：

生活の中に表れている高い安心・安全に対する意識

「健全で安心・安全な社会」(応募総数の16%)について、具体的には、「治安が良い」、「安全な水」、「日本国憲法」、「銃のない社会」、「清潔な環境」、「規律正しい社会」等が挙げられているとともに、「日本人は、衣食住のすべてにおいて安全の意識が高く、これが世界からの信頼を得ているのではないか」との意見もある。

また、これらを合わせた結果として、「安心して暮らせる」ことが、「世界に誇る日本の良さであり、子育てや教育を支える基本要素として重要である。そして、この文化を世界に広め、人類の発展に寄与すべきである」とする意見がある。

このうち、「規律正しい社会」については、「海外に暮らしてはじめて気づく」との指摘がある。このほか、「昔のように子供が安心して外で遊べる社会であるべき」や、「高齢者や身障者にとって暮らしやすいまちづくりを進めるべき」、という意見がある。

このことは、「長寿」といった指摘にもなっており、象徴的にいえば、「子どもや高齢者にとっても、安心して暮らせる社会」を求めているものといえるのではないかと。

また、「安心して暮らせるように、災害大国である日本では、あらかじめ予防対策を講ずることが重要」、との声もある。

### (2) 「健全で安心・安全な社会」分野で共有しうる価値と問題意識：

安心・安全に対する意識の高さは、相互信頼の証であり世界に誇れる“日本らしさ”。

「健全で安心・安全な社会」については、「生活の中において安全に対する意識の高さと、実際に安心・安全で暮らせることが世界に誇ることのできる“日本らしさ”である。そして、このことは日本人の相互信頼の証でもあり、大切にしていけるべきであるとともに、世界に広め貢献すべき」、という点は、共有しうる価値であり、問題意識であるといえると考えられる。

なお、「健全で安全・安心な社会」を支える要素として、前章までに挙げられている「気質・感性」や「生活様式」のほか、次章に述べる「技術」が深く関係している。

## 2 - 6 . 技術

(1)「技術」の内容:

使い手への心配りが生み出す、匠の技から最先端技術。

「技術」(応募総数の3%)では、“日本らしさ”として、陶磁器や和紙、織物等といった「伝統工芸における匠の技」から、「先端技術のモノ作り」に至るまで、「技術力の高さ」と、これら技術を駆使する「作り手の気質」とが挙げられている。

「作り手の気質」の内容としては、「繊細さ」、「きめ細かさ」、「高い精度」、「仕上げへのこだわり」、「責任感」があり、これらの要素を支えるものとして、「使い手を思う作り手の心配り」が浮かび上がってくる。これらの気質は、「2 - 1 . 気質・感性」でも取り上げられているところである。

また、使い手にとっても、作り手のこのような気質・感性に裏打ちされたモノを、生活の中で実際に見て、使うことで、ぬくもりや暖かさを感じられ、感性が豊かになっていく、としている。つまり、「使い手の感性」に働きかけ、共感を得ていく作り手の技術の大切さが挙げられている。

“日本らしさ”を表す技術分野は、伝統工芸に限らない。日々の生活の中に活かされている技術を挙げる声が多い。中でも多くの方が挙げた主な分野は、「食」、「建築・建造」、そして「モノ作り・製造」の3つ。具体的には、以下のとおり。

・ 「食」 :

色彩鮮やかな和菓子を作るワザや、日常の食生活に溶け込んでいる日本酒・味噌・醤油・納豆・漬物といった発酵技術等が挙げられ、こうした技術が日本の豊かな食文化を育んできた、としている。

・ 「建築・建造」 :

神社仏閣の美しさや、それを実現する左官・大工等の職人の技術力や気質が挙げられている。このほか、橋梁やトンネルといったインフラを構築する技術や、砂防技術・植林技術等が、その技術力を理由に、挙げられている。

・ 「モノ作り・製造」 :

ネジ製造や金属加工等を行う町工場の職人や、現場で日々改善・改良に努める技術者・生産者のひたむきな姿勢が多く挙げられている。

こうした中で、未来に向かって成長していく技術分野を挙げる声も多かった。例えば、高い安全性・快適性を実現し環境にも配慮した「自動車技術」や「鉄道・新幹線の技術」、暮らしの中で人間をサポートする「ロボット技術」等が挙げられる。

中でも、最も多かった分野が、3R(リデュース、リユース、リサイクル)や省エネルギー

ー・省資源を実現する「環境関連技術」であった。今後、これらの技術を通じて、地球環境問題等グローバルな課題に対して、“日本らしさ、ならでは”を活かして国際貢献していくことを求める意見がある。

いずれにしても、日本が「技術立国」である点を改めて見つめ直し、その“らしさ”を磨き上げていくことが重要だという点で多くの意見は共通している。

技術分野における今後の課題やそれを解決する政策の方向として、“日本らしさ”を表す感性に裏付けられた技術と、それを担う人材を守り、伝え、磨き上げ、育成していくことが多く挙げられている。

また、「自然科学に重点を置く学校教育に改善すべき」や「これらの“日本らしい”技術が日々の暮らしの中で使われる機会が増え、その価値が評価されることも重要である」、とする意見もみられる。

(2) 「技術」分野で共有しうる価値と問題意識：

作り手の高い技術と使い手を思う心配りは、世界に貢献できる。

技術分野については、“日本らしさ”を表すものとして、伝統工芸(陶磁器、和紙、織物)から、日常生活の中に見出されるもの(食、建築、モノ作り等)、そして先端技術(自動車、新幹線、ロボット、環境技術等)に至るまで幅広く挙げられている。

これらいずれについても、特定の技術分野に限らず共有しうる価値は、「その技術を支えるものとして、作り手(技術者、技能者、職人)の高い技術力と、こうした作り手における「使い手を思う心配り」」であるといえるのではないかと考える。そして、「作り手の心配り」の表れとして、「繊細さ」、「きめ細かさ」、「高い精度」、「仕上げへのこだわり」や「責任感」等が挙げられている。

こうした作り手の気質に支えられた技術力が、技術立国としての日本の存在感を高め、日本は、こうした技術力を活かして地球温暖化対策を初めとする国際貢献をしていくべき、と認識されている。

共有しうる問題意識として、日本の技術力を支える作り手の育成とともに、“日本らしさ”を活かしたモノを日常生活の中でも使う場を増やしていく。このためには、社会において、技術・技能を有する作り手やその技術・技能自体の価値を評価する風土が必要である、ということがいえるのではないかと考える。

### 3. 考察

「美しい日本の粹(すい)」「日本らしさ、ならでは」は一人ひとりの内面や日常の行動にあることを再認識

3,447件の応募全体において、四季のある自然、里山やまち並み景観、文化芸術、社会ルールや法制度、職人や先端技術といった、目に見える、などはっきりあらわれているもの、ことがあがる一方で、『気質・感性』と『生活様式』にあたるものの合計が48%を占めている。

そこで浮かびあがってきたのは、「美しい日本の粹(すい)」「日本らしさ、ならでは」の多くが、一人ひとりの日常の生活の中にあるということ。

思いやり、恥を知る、人と和するといった『気質・感性』と、挨拶、家族の団欒(だんらん)、四季折々の年中行事などの『生活様式』に、『文化芸術』にある日常の衣、食、住や、『自然・景観』におけるまち並み、農山村の風景、の理由にもみられる気質や感性、行動をあわせると、応募者の多くは、「美しい日本の粹(すい)」「日本らしさ、ならでは」を、一人ひとりの内面や普段はあまり意識することのない日常の行動にこそあると考えていることが見出せる。

そして、「日本らしさ、ならでは」の多くには、「思いやり」が影響していることが垣間(かいま)見えた。

『気質・感性』では「思いやり」、「高潔(こうけつ)・清貧(せいひん)」、『生活様式』では「ことば」、「家族の絆・近所の交流」が多くあがっており、そこには自然や相手への感謝、配慮、共生、絆(きずな)が共通する理由として見られる。

なかでも「思いやり」に分類したおかげさま、親切、おもてなしの心、感謝の心、心配りは、『生活様式』(特に、ことばや家族・近所との絆(きずな)にみられる)から『景観』、『文化芸術』、『健全で安心・安全な社会』、『技術』に至(いた)るまで幅広く「美しい日本の粹(すい)」「日本らしさ、ならでは」の理由として挙がっている。これらのことから「思いやり」が、今日に至る様々な“日本らしさ、ならでは”のあらわれである姿勢、行動、形式の重要な要素となっていると考えられる。

それは、日本固有の風土のもと、稲作・農耕文化を通じた自然との共生や、近隣との助け合いの精神などを通じて育まれたものと考えられる。

また、50代を中心に、「癒(いや)し、和み、安らぎ、ゆとり」を、四季のある自然や水田のある農山村風景のみならず、和食、和服、和室、唱歌など『文化芸術』や家族の団欒(だんらん)、挨拶といった『生活様式』にも見出す傾向がある。つまり、日本人の多くは、日本ならではの自然や景観、そこから派生した「和」の文化や生活様式に、いわば心の原点を見出していると考えられる。

一方で、『気質・感性』において、現在の社会問題や事件を知った上で、「他人への配慮を失っている」、「大人自身の規範(きはん)の欠如(けつじょ)」、「公德心、地域、親子の教育の見直し」、「恥に対する意識の希薄化」といった問題意識や危機意識が多くあがり、美しくなくなってきたもの、失われつつある美しさという観点から、将来に向けた見直しの必要性が浮かびあがってきた。

各年齢層の傾向の中で、特徴的な傾向を示したのが10代。

他の年齢層と比べて『文化芸術』の割合が34%と高く、かつ他の年齢層が「祭り」「童謡」「唱歌」や「漆器」「歌舞伎」「茶道や華道」「神社やお寺」など伝統や芸能、芸術的なものをあげているのとは異なり、衣・食・住にわたる和の文化を「美しい日本の粹(すい)」「日本らしさ、ならでは」として挙げている。しかも、他の年齢層と比べて「日本にしかない」、「美しい」又は「健康的」という理由で、「着物」、「和食」、「和菓子」、「和室」、「庭園」といった日常生活の中にあるものの割合が高い。

また、『生活様式』における「ことば」に関する意見の割合も、ほかの年齢層と比較して多い。日常使っている「ありがとう」、「おかげさま」、「いただきます」、「ごちそうさま」など感謝をこめた挨拶や、話す相手を配慮する丁寧な言い回しを美しいと感じている。

これらから、日常生活で身近に接する昔ながらの日本、日本的なものに対する誇りが感じられる一方、これがなくなりつつあることへの心配から「なくしてほしくない」「残したい」「伝えたい」という声も多くある。

こうしたことから和を美しくカッコイイものとして何らかのかたちでかかわろうとする兆(きざ)しが感じられる。

一方で、『気質・感性』における「人と和する気質」に関する意見の割合も多いが、相互扶助の精神というよりも、「自分が不都合なことがあってもそっとしておく」、「喧嘩しても、苦しいだけだし、仲良くしていると楽しいから」等、できるだけ人との摩擦(まさつ)を避けたい又は人間関係をうまく保ちたい、といった意識が見られる点が特徴である。

(参考資料 - 1)

## 「美しい日本の粹(すい)」の募集要項(抜粋)

あなたが思う、日本の“らしさ”“ならでは”とは、何ですか。

「日本が様々な分野で本来持っている良さや『薫り豊かな』もの、  
「失われつつあるが途絶えさせてはいけないもの」、  
「かつては美しかったが美しくなくなってしまったもの」、  
「実はその美しさにまだ気づいていないもの」、  
そして、「これから作り上げるべき美しいもの」

そのような日本の“らしさ”“ならでは”を教えてください。

例えば、

山・森・海といった自然や、田園や里山、瓦屋根のあるまち並み、  
日本語の美しさ、謙譲の美德、礼儀正しさ、凛とした立ち居振る舞い、  
畳や襖のある生活、障子からもれる光、日本食、  
匠のワザ、省エネルギーを実現する先端技術、  
調和や融和の精神、勤勉さ。

このように、自然、文化芸術、技術、さらにはその中にある  
気質や感性もあるかもしれません。

あなたが思う、日本の“らしさ”“ならでは”を、  
以下の様式にそって、日本語で、各々ご記入の上、送付ください。

1. 日本の“らしさ”“ならでは”である「美しい日本の粹(すい)」とは何ですか。  
(31字以内)
2. それを選ぶ理由は何ですか。また、それは、あなたの日々の暮らしの中で、  
どのようなものとして表れていますか。(100字以内)

(参考資料 2)

「美しい国づくり」企画会議 有識者名簿

【座長】 平山郁夫 日本画家

【座長代理】山内昌之 東京大学大学院 総合文化研究科 教授

石井幹子 照明デザイナー

井上八千代 京舞井上流五世家元

岡田裕介 東映(株) 代表取締役社長

荻野アンナ 作家・慶應義塾大学 文学部教授

川勝平太 静岡文化芸術大学 学長

庄山悦彦 (株)日立製作所 取締役会長

田中直毅 国際公共政策研究センター 理事長

中西輝政 京都大学大学院 人間・環境学研究科 教授

弘兼憲史 漫画家

松永真理 (株)バンダイ 取締役

世界に信頼され、尊敬され、愛される、リーダーシップのある国

文化、伝統、自然、歴史を大切にす国

自由な社会を基本とし、  
規律を知る、凛とした国

未来に向かって成長する  
エネルギーを持ち続ける国

自然

美味しい水 美しい空 空気  
太陽 月 風 湖  
山岳 森林 竹林 清流  
川 滝 白砂青松  
魚 かえる 虫 蛭  
植物 トンボ 稲 桜  
ブナ原生林 ジュゴン  
富士山 瀬戸内海  
阿蘇 立山連峰

景観

城・城下町 社寺  
庭園 兼六園  
白川郷 蔵島  
椎葉村 祖谷地方  
日本家屋 屋根瓦  
集落・里山 菜の花畑  
棚田 水田風景  
雪景色 電線地中化  
清潔なまち並み  
風情あるまち並み

文化芸術

漆器 陶磁器 絹織物 和紙 刀 鍼灸 盆栽  
寺社仏閣 和風建築 折り紙 和服 学生服  
風呂敷 風鈴 相撲 弓道 剣道 軟式テニス  
和食 和菓子 日本茶 日本酒 箸 漫画・アニメ  
落語 民謡 演歌 祭り 農耕・稲作文化  
日本文学 昔話 童謡・唱歌 昔遊び(メンコ)  
茶道 華道 香道 書道 和歌・俳句 講談  
歌舞伎 浄瑠璃 舞踊 雅楽 能楽  
皇室 元号 祝日 日の丸

健全で安心・安全な社会

治安が良い 安全な水  
銃のない社会 防疫体制  
清潔な環境 教育制度  
平和憲法 環境政策  
政治制度 雇用制度  
年金・保険制度 法治国家  
バリアフリー 経済制度  
安心して暮らせる 長寿  
時間に正確な電車

技術

環境技術 省エネルギー技術  
農業技術 システム開発技術  
インフラ整備技術  
防災技術 屋上緑化  
新幹線 大橋 トンネル  
ナノテク ロボット 自動車  
植林 砂防 発酵技術

成果・発現

自然と調和した日常生活

縁側、襖、障子、畳、簾、蚊帳  
井戸、湧水 温泉・風呂  
旬の食材 庭、池 植木鉢  
打ち水 閑静 風鈴の音  
虫の音 小川のせせらぎ

四季折々の年中行事、生活習慣

正月 書き初め 初詣 年賀状 お年玉  
成人式 節分豆まき 雛祭り お彼岸 入学式  
花見 端午の節句 七夕 海水浴 潮干狩り  
花火 縁日 お盆 運動会 月見 収穫祭  
紅葉狩り 除夜の鐘 卒業式 てるてる坊主

ことば

美しい日本語 方言 挨拶  
正しい日本語 音の美しさ  
謙譲語・敬語 多様な表現  
歴史的仮名遣い 思いやり  
4つの文字を持つ ある言葉

マナー

公共マナー  
交通マナー  
江戸しぐさ  
傘かしげ  
お年寄りに席を譲る

生活様式

もったいない精神  
ものを大切に  
ゴミの出しにくい社会  
節約

家族の絆、近所の交流

お宮参り 七五三 頑固な父親 良妻賢母  
祖父母との交流 祖父母の手 父母の手作り  
家族の団楽 お弁当 茶の間 囲炉裏を囲む  
結納 ふるさと 親孝行 お裾分け 育児  
世話焼きおばさん 向こう三軒両隣

信仰

仏教 神道 禅  
先祖供養 年忌供養  
お墓、仏壇  
お墓参り お遍路  
八百万の神々

立ち居振る舞い

礼節 品位 お辞儀  
礼儀作法 躰 合掌  
食事作法 正座  
大和撫子 箸の持ち方  
揃えた履物

地域を支える

町内会活動 消防団活動  
PTA活動 子供会  
町衆の心意気 ボランティア  
コミュニティー

(職人技)

町工場技術 匠の技術  
宮大工技術 様々な手道具  
文化としての技術 地道な姿勢  
技術の継承 道を究める力  
師弟愛 チームワーク  
職人を尊重し大事にする風土  
プロフェッショナル意識  
製品や品質へのこだわり  
新しいものを生み出す探求心  
現場主義

自然への畏敬

自然と調和する心  
自然を愛する心  
自然崇拜  
妖怪

感性

豊かな感受性  
もののあわれ  
わびさび

人と和する気質

和を以て尊しとなす  
温厚、柔和  
相互扶助の精神  
平和を愛する心

寛容の精神

やさしさ  
いわずもがな  
阿吽の呼吸  
以心伝心

思いやり

心配り 忘己利他  
親切 惻隱の情  
察する心 間をとる  
おもてなしの心  
感謝の心 おかげさま

謙虚・謙讓

奥ゆかしさ  
譲り合い  
慎み深い  
中庸  
謙遜  
分相應

規律正しさ

正義 高いモラル  
凛 良心 公德心

敬う心

長幼の序

義理人情

恩返し

公平・公正

フェア  
平等観  
人種身分で態度を変えない

高潔・清貧

武士道  
いさぎよさ  
恥を知る  
清廉潔白  
弱きを助け強きをくじく  
武士は食わねど高楊枝

勤勉・誠実

まじめ  
几帳面  
正直  
一生懸命  
努力  
裏切らない

繊細さ

丁寧さ  
器用さ  
細やかさ

気質・感性

風土(地理的条件)

四季の移り変わり 海 地震等の災害が多い 多雨 火山国 島国(海に囲まれている) 肥沃な土壌 農耕・稲作



世界に信頼され、尊敬され、愛される、リーダーシップのある国

文化、伝統、自然、歴史を大切に作る国

自由な社会を基本とし、規律を知る、凜とした国

未来に向かって成長するエネルギーを持ち続ける国

自然

自然は、癒し、ゆとり、安らぎを提供し、心を和ませ、心身に潤いを与えてくれる。自然が、豊かな感性、気質等を育んだ。豊かで美しい自然は日本が世界に誇れるものである。日本独自の自然は、伝統や豊かな精神文化を育んだ。文学、音楽、絵画、衣食住の全てが、四季ある自然の恩恵を受けている。地域を象徴する自然は、地域の信仰を集め、地域の誇りの象徴となっている。おいしい空気、水等は、快適に暮らすために必要である。

景観

農村漁村の美しい景観は、日本人の心を癒し、情緒ある人間を形成する原動力である。農村風景は、自然の美、先祖から受け継いだ努力の美を表している。棚田は、勤勉さ、几帳面さ、丁寧さの象徴である。水田は、日本の美しい文化と信仰の原点であり生活の基盤である。寺社は建築、儀式を今に保持し、「歴史」の具現である。日常生活の舞台である商店、歴史的・伝統的建物等は、歴史や生活文化そのものである。美しい瓦屋根が連なる家並みは日本特有の誇りである。自然と調和した風景、伝統的な建物、まち並みは、日本人の美意識を取り戻す。

文化芸術

日本の伝統技術で作られた身の回りの小物・道具は、安らぎを覚え、世代を問わず愛される。日本家屋は、勤勉さと礼儀正しさを涵養し、和の心を育み、環境に優しい省エネ住宅である。着物は、ものを大切にすることを育み、世代を超えて身につける日本人の知恵の凝縮である。制服文化は、勤勉さ、慎ましやかな心を表し、自らを律し、凜とした個人を体現するものである。伝統芸芸等は、精神面の鍛錬に重要である。和食は、その美しさや健康食としての機能だけでなく、その背景の家族の絆が見出せる。祭りは、自然・祖先への感謝、畏敬の念等を表し、地域の絆を育む役割が大きい。農耕・稲作文化は、四季折々の自然・風土に根づいた日本文化の基盤で日本人の感性を培った。詩歌・童謡等は、四季の美しい景色や親子等の深い愛情が凝縮し、心が洗われ安らぎを覚える。華道は、水を大切に思う心、生命に対する尊さを思う心、茶道は、人への感謝の心を育てる。日本文化は、礼儀、マナーなどの基本的な美意識と自然科学への理解を形成するものである。

健全で安心・安全な社会

衣食住全てにおいて安全に対する意識の高さが、日本らしく、世界からの信頼を築いている。時間の正確さ、規律正しさが、日本人の美德である。安全・安心・安定して暮らせることが、世界に誇る日本の良さで、日本人の相互信頼関係の証である。安定した生活が、子供たちをきちんとしつけ、教育できるゆとりを生む。全国どこでもいつでも安心して水が飲める国は世界的に見ても例がない。高齢者・身障者を思う気持ちは、優しさ、たくましさ、敬う心に支えられている。自分のやりたい仕事自分の努力次第で自由にできる社会であるためには、安心して働け、公平感を持ち、日本で生まれて良かったと感じられる制度が必要である。

技術

自動車・鉄道・新幹線技術やロボット技術、環境技術、植林技術・防災技術等は、未来に向かって成長する技術で、世界に誇ることができる。省エネを実現する先端技術により、地球温暖化防止に貢献できる。伝統工芸の匠の技から先端技術まで、日本らしさを表す気質・感性や技術力の高さを根源にしている。日本には現場主義の土壌があり、その技術で製品化・実用化されている。伝統技術を大切にしつつ、先端技術を取り入れ、調和する特性がある。日本人の製品、品質へのこだわり、美意識は、世界的にも希少である。匠の技は、祖先の伝えた大切な遺産であり、素晴らしいしさを感し、心が落ち着き、日本人の誇りを再認識する。

自然と調和した日常生活

日本人は自然の恩恵に感謝してきた。自然と調和した生活が、心の豊かさや人への思いやりも育てる。

四季折々の年中行事、生活習慣

年中行事や生活習慣を通じて、日本人の感謝の心や相互扶助の精神等につながっている。年中行事への参加や生活習慣の継承を通じて、地域や親子・世代間の絆を育んだ。

ことば

きちんとした挨拶、おかげさまでといった言葉は、日本人らしい相手への思いやりや敬意、気配りの意識を表し、人と人との関係の和につながる。感謝の気持ちなど人の心を多彩に表現することができる。

マナー

相手への思いやり、助け合いが根底にあり、これによりお互いが心にゆとりをもつことができ、平和な社会につながっていく。

職人技

日本人は、ものづくり日本の原点となる職人を尊敬し、技術を高く評価してきたことから、職人に誇りが生まれ、誠実で創意工夫された作品ができた。使い手が、生活の中で実際に使うことで、ぬくもりや温かさを感じ、感性が豊かになって、作り手に共感を持つことになる。町工場の職人や現場で日々改善・改良に努める技術者・生産者のひたむきな姿勢が、大切である。

地域を支える

無償の精神が根底にあり、町内会を通じた地域での助け合い、消防団、子供会、町衆の心意気などが地域社会の安心・安全を支えてきた。特に消防団等の無償の地域安全活動は海外にはあまり例がなく、思いやり等気質の具体的な行動例と考えられる。

もったいない精神

無駄を見直し、再生利用の考え方を生み、世界に先駆けその技術が目覚ましく発達した。ものを大切にすることが、生命の尊厳、大切さを諭すことになる。

家族の絆、近所の交流

家族・近所との絆が大切であり、家族の団欒、三世代の交流、親と子のスキンシップ、近所との交流を通して、感謝、思いやり、気配りを育む。町衆の心意気等が、地域社会で文化を支えた。

先祖を大切に  
する気風の継承

自然や先祖への畏敬と感謝の心は、人への思いやりや年長者への敬意につながる。

立ち居振る舞い

日本ならではの美しさの表現であり、日本人としての品格、誇りの源である。礼儀正しさ、礼節は、海外でも通用するという自信が感じられる。

自然への畏敬

感性

人と和する気質

思いやり

謙虚・謙讓

規律正しさ

敬う心

義理人情

公平・公正

高潔・清貧

勤勉・誠実

繊細さ

文化、伝統、宗教、人間関係等における和を尊ぶ意識。

相手を受け入れ、尊重し、認め合う姿勢。

地震が起きた際の冷静かつ整然とした行動。

国際協力等、人が見ていないところでも地道にやりとげる姿勢。

匠の職人や農業に従事する人々等の黙々と良いものを創ろうとする姿勢。

成果・発現

生活様式

気質・感性

世界に信頼され、尊敬され、愛される、リーダーシップのある国

文化、伝統、自然、歴史を大切にす国

自由な社会を基本とし、規律を知る、凜とした国

未来に向かって成長するエネルギーを持ち続ける国

自然の保護

日本古来の自然、生物、名花、草花等の野生種を未来に残すべきである。豊かな水を守るため、山、森林の保護、地下水の復活が重要である。四季を彩る自然を保護する国民的な運動、緑化運動を推進すべきである（国花、県花、市町村花、植樹祭等）。大人や子供たちが、森林にもっと身近に接し、尊さを学ぶべきである。自然を復興し、環境大国として各国のモデルとなるべきである。山に木を植え、その土地の本来の植生に復元すべきである。富士山の清掃活動をして、世界遺産になる努力をすべきである。蛍が日本全域で見られるように環境を改善すべきである。太陽の恵みを有効活用し、化石燃料に依存した生活を見直すべきである。

景観の保護

農山村風景は、日本人の原風景で、心を癒すものとして残すべきである。防災、食料供給等のために、棚田、千枚田を保存すべきである。日本人が護り続けた心と智慧が表れた田園風景を維持すべきである。神社、仏閣等、荘厳な景観を保存すべきである。伝統的なまち並み、古来からの建築物を守り伝えていくべきである。自宅周辺の身近な風景で個性ある素敵なまちづくりをすべきである。電線、看板の乱列のないまち並みに変えるべきである。まちのごみが人の心を荒み、社会を荒む。

文化芸術の継承発展

世界に誇る伝統工芸を生活に取り入れ大切にする。日本人の勤勉と礼儀正しさを涵養し、和の心を育み、環境に優しい和風建築を再認識すべきである。着物を学校教育で取り入れるなどで広げるとともに、その技術を受け継ぎ世界に発信すべきである。日本の伝統・文化である制服を着用することで、連帯意識の育成や規律を学ぶべきである。食事作法、筆記等を幼児に躰けるべきである。日本の伝統食文化を食育に取り込むべきである。文化継承、地域の繋がりを強化、青少年の教育、道徳心の育成等のために祭りを大切にすべきである。日本ならではの家族・地域が係わり、代々伝えてきた古来からの伝統芸能を継承すべきである。詩歌、詠歌は日本の美の再発見と日本語の洗練を促す。古典を味読すれば心が豊かになる。文化の祖父母から孫への隔世伝承がなくなった。古来からの「日本文化」を必修科目扱いにすべきである。手と頭を使う手紙、そろばん、書道を見直すべきである。昔遊び（めんこ等）を現代の子供達に踏襲すべきである。日本のアニメーションには世界から絶賛される技術と芸術性の高さがあり、発展させるべきである。

健全で安心・安全な社会の実現

きれいな水道水は、日本らしさの重要な要素であり、その技術と思想は世界で希有で、地球環境の保全に寄与すべきである。災害大国である日本であらかじめ対策をする社会であるべきである。昔のように子供が安心して外で遊べる社会であるべきである。高齢者、身障者が暮らしやすいまちづくりを進め、社会参加を促進すべきである。清潔な国であるべきで、日本人全員で定期的な大掃除をするという国民一人ひとりの心意気が大事である。落とし物が戻る国であり続けるよう、努力すべきである。国力を高めるため、良い教育を行い、人を育成することに重点を置くべきである。世界に誇る家畜疾病防疫体制を維持すべきである。

技術の革新

自動車・鉄道・新幹線技術やロボット技術、環境技術など日本の得意とする技術で、地球環境問題などグローバルな課題で日本らしい貢献をするべきである。先端技術を国際協力の目玉とすべきである。技術移転は、技術を文化として認識し、相手国との接点を見つけて行うべきである。日常生活用品が、工業製品や海外からの類似品により危機にある。伝統芸能や伝統行事の道具、工法等の技は、他に応用可能で守り伝えるべきである。細かな心使いと精巧な技を持つ町工場の技術を大切にすべきである。誠実で創意工夫された作品ができるよう、職人を尊敬し技能を高く評価すべきである。世界一の部品加工技術の源である日本人の努力、忍耐力がなくなっている。自然科学に重点を置く学校教育に改善すべきである。

自然と調和した日常生活の実現

地域の自然の触れ合い、地産地消の持続的な営みを大切にすべきである。

四季折々の年中行事、生活習慣の継承

年中行事や生活習慣の継承が失われつつあり、特に地域や家族の絆が希薄である。

美しく、正しいことばの奨励

美しいことばは、取り戻すべきものであり、現在の社会状況に対する問題解決の一手段となりうる。カタカナ、英文字が氾濫している。

マナーの向上

公共の場で、自己中心的な行動が目立っている。失われてはいないが、維持、再認識すべきものである。

職人技の継承

日本らしさを表す感性に裏付けられた技と担う人材を守り、伝え、磨き上げ、育成すべきである。職人を尊重し、大事にする風土を醸成し、維持すべきである。技が、日々の暮らしの中で使われる機会が増え、その価値が評価されることが重要である。「使い手の感性」に働きかけ、共感を得ていく作り手の技術が、より一層重視されるべきである。

もったいない精神の普及

環境保全、省資源に有効。ものを大切に、食べ物を無駄にしない気持ちが、薄れつつある。

家族・近所の温かい交流の実現

家庭・社会とも人間関係が、希薄になりつつある。祖父母の存在が生活の知恵や母親の支援につながり、社会の問題解決の鍵である。

先祖を大切にする気風の継承

先祖への畏敬を欠き、年長者を尊敬しなくなった。

立ち居振る舞いを美しくすることを奨励

失われてしまったものが多く取り戻すべきである。正座、お辞儀、躰等を通して日本人としての再認識を促すべきである。

地域を支える活動の活発化

地域の交流・絆につながるもので、維持・強化すべきものである。

“日本らしさ、ならでは”の多くにあらわれている気質・感性（思いやり、高潔・清貧、人と和する気質等）の再認識・再生

他人への配慮や思いやりを失っている。

大人自身のしつけ不足で、規範となるべき大人がいない。

公徳心、道徳、親子、地域について教育の見直しが必要である。

恥に対する意識の希薄化。

自己中心、成果主義、競争主義、拝金主義等の弊害。

成果・発現

生活様式

気質・感性

世界に信頼され、尊敬され、愛される、リーダーシップのある国

押し出しの強さで人をまとめる欧米型とは異なり、「引き」の文化を押し出し「遠慮」のリーダーシップをとるべきである。

日本の優れた伝統、文化に裏打ちされた日本人の強みを更に磨きをかけ育てあげ、世界から尊敬される「日本ブランド」を築く。

日本は、奥ゆかしさを美德とするから、国際社会では時に説明不足で損をするが、良い部分をもっと積極的にアピールすべきである。

国際社会で、普遍性に基づく人類的な見地から明確な自己主張をしていくことが必要である。

核廃絶など世界からおかしいと言われる考えでも貫くことが逆に尊敬される。

文化、伝統、自然、歴史を大切に使う国

自由な社会を基本とし、規律を知る、凛とした国

未来に向かって成長するエネルギーを持ち続ける国

自然の保護

豊かな森と清らかな水は、それ自体が世界に誇るべきもので、それを維持する環境技術は、将来、日本が世界に貢献すべき分野であり大切である。日本は異なる生態系の宝庫で、地域ごとに異なる魅力があり、その多様性を各地域が認識し合うことが大切である。自然と開発が矛盾しないように、知恵を出して技術を活用して調和させるべきである。環境は、努力して守り磨いてきたものである。

景観の保護

世界と比べて日本の景観は汚いが、人の心を荒ませるので、美しくすることで、物心ともに美しい日本にしたい。私たちが住んで、暮らしている中で美観を保つには、美しさを感じる心が大切で美しい国をつくるのは人である。深層心理にある美しい国とは、水田、棚田の風景で稲穂の満ちた国である。景観は、努力して守り磨いてきたものである。

文化芸術の継承発展

歴史に対する基礎知識、教育を身につけることは大事で、特に日本史を身につけることが必要である。世界の古典や名作が日本語に翻訳されており、隠れた「世界共通語」としての長所を強調すべきである。芸能全般に関し、子供たちに鑑賞する習慣を作ることが、美しいものを感じる心、大切にすることを育む。食の文化は、世界に誇る自信の持てるものである。自らの文化的価値を掘り起こし、地域の独自性に基づくふるさと発見競争を促し、奨励すべきである。生活に美しさ、芸術性がある生活文化を表彰すべきである。日本人はどこかで和歌、俳句にかかわり、「日本人は全員詩人」は海外発信に非常にインパクトがある。祭りは、自然観、季節感、伝統美から、地域で継承されて、歴史や知恵、精神性、様式を見ることができる。源氏物語は、日本文化の源泉の一つで、誕生一千年は世界に発信して日本の美を再発見できる機会である。

健全で安心・安全な社会の実現

命を大切にする国、例えば病気の方を救ったり、銃を使った犯罪を撲滅することが、大きな課題である。長寿とは、命を大切にするという価値を表す。銃を持っているのはおかしいと考える社会は、日本独自で世界に誇れるものである。日本人にとって水と安全はタダであると思っている感覚は、基本原則としては素晴らしい、自慢できるものである。

技術の革新

日本の強みは、熱心、勤勉でチームワークの良い国民性、ものづくりに長けた能力で、日本の厳格なユーザーに磨かれ世界に誇れる製品を生み出した。環境、省エネ分野の技術は、「技術外交」として世界に貢献している。虚業が流行しているが、基本的に実業、ものをつくる国であるべきである。最先端技術と老舗企業の技術が合わされており、こうしたものづくりの優れた「現場力」を掘り起こすべきである。科学技術は、便利さには不可欠であるが、当たり前であるため気づかないので、その重要性を再確認する必要がある。

自然と調和した日常生活の実現

日本にもともとあった畳、廊下、障子、襖のあった生活を思い出し、子供たちに知ってほしい。虫の音が分かるのは日本人にしかない繊細さと独特の感性である。

四季折々の年中行事、生活習慣の継承

芸能の源ともいえる年中行事、様々な儀式などに触れることが少ない。七夕企画のように、今後も年中行事を取り上げて、盛り上げるのがよい。

美しく、正しいことばの奨励

教育の中で敬語を教えることにより、人を敬う心、謙譲の心が育まれる。日本らしい繊細な事象を表す日本人の基本となる言葉が、揺らいでいる。

地域を支える活動の活性化

いろいろなステークホルダーを大切にしている企業というものの考え方は、自信を持って世界に誇れるものである。個人・企業レベルによるボランティア活動を通じて、世界に貢献する。自発的なボランティア活動が、子供たちに自然に伝わるようになると良い。

職人技の継承

工業分野において蓄積された匠の技があるから、調和・制御のとれたハイブリッドエンジンの仕組みができた。特殊技術は、中小企業が世界に誇れるもので、実用に徹してこそ美しく、芸術的である。職人は、自主独立という形で自分の領域を確定、守ろうとする気持ち、自負心が重要である。地道な技術者に光を当て、讃える表彰制度を検討すべきである。

もったいない精神の普及

風呂敷、手ぬぐいなどはシンプルで簡素が良いとする考え、自然を敬う心があり、環境保全の観点から世界に発信すべきである。

家族・近所の温かい交流の実現

世代間対話で教え、築き合うことが必要である。地域の物語、説話等を祖父母が子供に聞かせる。家庭・近所で子供の社会性の育成を行うことが重要である。

立ち居振る舞いを美しくすることを奨励

目を見て人に話す等、本来の意思疎通のあり方を忘れがちである。国際的な振る舞いの美しさは、普遍性に基づく明確な自己主張で、築く必要がある。

“日本らしさ、ならでは”の多くにあらわれている気質・感性（思いやり、高潔・清貧、人と和する気質等）の再認識・再生

日本人の感性は、日本の風土から培われ四季の変化に富んだ自然との共生により叙情性、情緒性が育まれた。

多様性を許容し他者と共存する寛容性は、現代の国際社会の諸問題にも有益な示唆を与える。

和の精神、義理人情、謙譲等の精神は、日本特有のメンタリティーである。

現代日本の「心の荒廃」という問題の中で、「環境の危機」が叫ばれている。美しい国とは、深く内面的な心が美しい国である。環境や景観を守るものは、日本人の心である。

日本人の寛容性、包容性が、海外からの先進文化を取り入れつつ、融合させ、日本古来の伝統を守り続けてきた。

日本では、自分が一歩引く遠慮の美德が和をもたらした。「引き」の文化は世界に誇れるものである。

「世界最小、最軽量」を開発する技術は、小さな庭に宇宙を感じるといった日本人の精神性がある。

戦後、日本人は、自信が持てず、日本独自のものが忘れられてきた。

成果・発現

生活様式

気質・感性